

作物名：なし

病害虫名：うどんこ病 (病原：*Phyllactinia pyri-serotinae*)



写真1 なしの被害葉（葉裏）



写真2 なしの被害葉（葉裏の拡大）
小粒は閉子のう殻（黄色：未熟、黒色：成熟）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉に発生する。果実には発生しない。
- 主に、葉裏に白色の菌そうを形成する。
- 盛夏期は発生が目立たないが、気温が下がり始めると急激にまん延し、晩秋にかけて発病が続く。
- 激しく発病すると早期落葉する。
- 秋季になると、病斑上に小粒状の閉子のう殻を形成する。
- 閉子のう殻は、最初は黄色で成熟すると黒色になる。

2 伝染源・伝染方法

- 病斑上に形成された閉子のう殻は、成熟すると風などで離脱し、枝や幹の表面に付着して越冬する。また、落葉した発病葉でも越冬する。
- 翌年の春から初夏にかけて、越冬した閉子のう殻から子のう胞子が飛散し、新葉に一次感染する。
- 新葉上で発病すると、病斑上に分生胞子を形成する。分生胞子が飛散して、二次感染を繰り返す。
- 本病は、日本なし、西洋なし及び中国なしに発生する。

3 発病しやすい条件

- 秋季に降雨が少なく、乾燥が続くと多発しやすい。
- 本病の発生に品種間差異はほとんどない。

4 防除方法

- 春季までに、せん定枝や落葉を処分する。せん定枝や落葉は、ほ場内に放置しない。
- 春季～夏季に、本病に登録のある殺菌剤を散布する。
- 風通しの良い樹形に努め、薬液が樹冠全体に届くようにする。

5 出典

(1) 参考文献

- 農業総覧原色病害虫診断防除編第6巻（農山漁村文化協会）
- インターネット版 日本植物病害大事典（全国農村教育協会）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和7年11月作成)

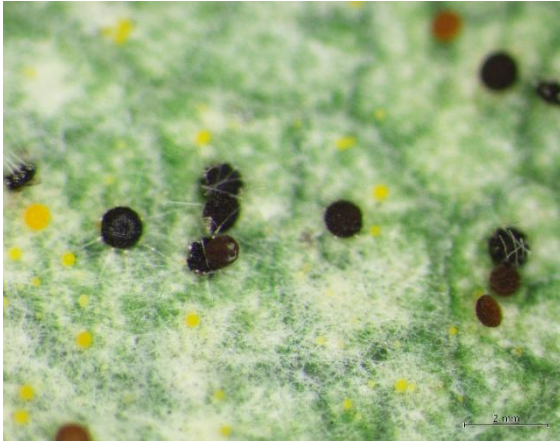


写真3 ナシうどんこ病閉子のう殻

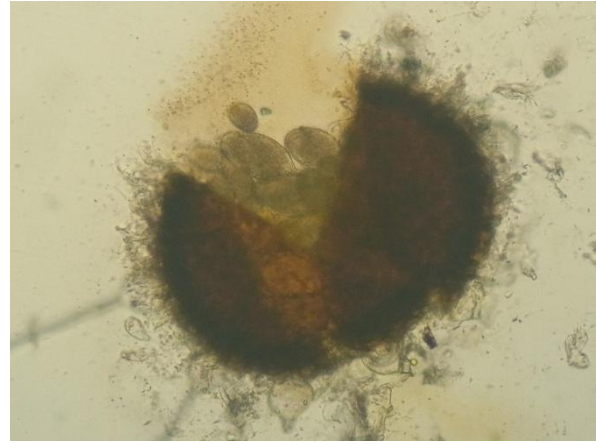


写真4 ナシうどんこ病閉子のう殻と子のう